未来の夢を創る子

平成３０年8月３１日　富岡第一小学校　９９７－０３４３

9月

ラジオ体操

校長　　藪下　亮治

夏休みの恒例行事といえば毎朝のラジオ体操。夏休みなのに、毎朝早起きし眠い目をこすりながら通って、最終日に文房具やお菓子などをもらった記憶がある人も多いのではないでしょうか。

昨年度、たまたま早く学校に出勤したことをきっかけに、学区内のラジオ体操に参加しました。今年は、夏休みに入る前に児童を通して校医の遠藤医院さんから「すそのんラジオ体操カード」が届いたことで、スイッチが入りました。土日、お盆休みは、どの地区も実施していないので、参加できたのは 17 日(18 か所)でした。

ここで、夏休みのラジオ体操の良さと実感していることをあげてみます。

①休みの期間でも規則正しい生活を送ることができる。

朝早く起きることで、１日の時間を有効に使えます。

②上級生の活躍の場となっている。

６年生、５年生が前に立って実施している地区がほとんどです。出席の印を押したりシールを貼ったりするするときは、小さい子から順番に並ぶという暗黙のルールもあります。

③ラジオ体操に参加することで、地域の子供と大人との交流ができる。

場所によっては、子供の数より大人(高齢な方)の方が多いところもありました。地区の中で顔見知りになり、いざという時(防犯や災害時) の助け合いにもつながると感じます。

その他に、園児や中学生も参加していたり、体操終了後毎日みんなで草取りをしている地区もあったり、富岡地区の素晴らしさをたくさん感じました。

ラジオ体操は 90 年　全国高等学校野球選手権大会は 100 回

ラジオ体操は 1928 年（昭和 3 年）11 月 1 日に昭和天皇ご即位の大礼を記念して逓信省（のちの郵政省）簡易保険局により「国民保健体操」としてスタートしました。当時はまだ日本人の平均寿命も今ほど長くはなく、「国民全体の健康を願って作られた体操」で文部省が任命した 7 人の体操考案委員により作成されました。その後、戦争で一度は中断を余儀なくされましたが、復活を望む国民の声にこたえる形で、新たな体操が「新ラジオ体操制定委員会」を中心に作成され、現在の形になったのは戦後の 1951 年（昭和 26 年）のことでした。当時の運動の専門家たちが集まり、「簡単、容易で誰にでもできるもの」「どこでもすぐやれるもの」「調子が良くて、気持ちのいいもの」というコンセプトで健康増進ができるように、一つ一つの動きが練りに練って作られました。ラジオ体操の事業は、その後民営化された、株式会社かんぽ生命保険とＮＨＫおよびＮＰＯ法人全国ラジオ体操連盟によって受け継がれています。

今年の夏も『富っ子スクール　絵手紙教室・手芸教室　』を開きました！

８月１日　絵手紙教室

※講師として、地域の絵手紙サークル「そよかぜ」の皆さんに来ていただきました。用意してくださった季節の野草や野菜等を題材にして、思い思いに描いてみました。

※みんな真剣です！

８月６日　手芸教室

※手芸の講師は、地域の手芸サークルの皆さんです。縮緬の布を縫って、うさぎを作りました。初めて針と糸を持つ子もいましたが、ていねいに教えていただいたので、参加者全員､完成させることができました。

前足と耳は、各自いろいろ考えて付けました。ちょっとした工夫で表情が変わります。手作りのよさですね。

これからの富っ子スクール

富っ子スクールの活動は、スクールコーディネーターさん、しずおか型コミュニティースクール（学校運営協議会）実行委員長さんをはじめとする地域の皆さんと連携して進めています。

※Ｈ２９年度作品

絵画作品展
９／７～９／１４　会議室

かかし祭り
９／２９搬入～１０／７搬出